

精神保健福祉援助技術総論

担当教員 平川 泰士

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- ・精神保健福祉士が行う相談援助の対象、業務内容、相談援助の概要について理解する。
- ・精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲、役割について理解する。
- ・精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。
- ・精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

【授業の展開計画】

1. 精神保健福祉士が行う相談援助活動の概要
2. 精神保健福祉領域（保健、医療、福祉等）における援助の対象についての理解
3. 精神保健福祉士が行う相談援助の基本的考え方（対象、目的、倫理、価値、意義、内容、原則）
4. 相談援助に係わる医療機関における専門職（精神科病院、精神科診療所等）の概念と範囲
5. 相談援助に係わる福祉行政・関連行政機関等（保健所等）における専門職の概念と範囲
6. 相談援助に係わる司法領域（保護観察所の社会復帰調整官等）における専門職の概念と範囲
7. 相談援助に係わる就労支援領域（労働行政機関等の障害者職業カウンセラー、職場適応援助者等）における専門職の概念と範囲
8. 相談援助に係わる民間の福祉施設・組織（福祉サービス等）における専門職の概念と範囲
9. 相談援助に係わるにおける専門職の概念と範囲
10. 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲
11. 精神障害者の自己決定、意思決定能力と法的問題
12. 精神障害者の人権擁護、権利擁護システムにおける精神保健福祉士の役割
13. 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助の意義と内容
14. 精神保健福祉活動における多職種連携（チームアプローチ、アウトリーチ）の意義と内容
15. 本講義の振り返りとまとめ

【履修上の注意事項】

本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目である。講義とあわせ、学生間の発表、グループワークなどの共同作業を行うので、積極的に参加することを求めます。また、指定された課題などについて、あらかじめ調べ準備を整え、不明な箇所については自身で調べ直す予習復習や課題（30～60分程度）を定める。

【評価方法】

講義時の指定の課題・レポート・参加状況（30%）、試験（70%）にて評価する。
再試験は実施しない。

【テキスト】

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健福祉士養成セミナー精神保健福祉相談援助の基盤 [基礎][専門]』、へるす出版

【参考文献】

講義時適時指定する